国語学習資料

意味のちがう言葉

年　　組　氏名〔　　〕

「ことわざ」のなかには、同じような意味を表しているものがあります。

たとえば、その道にすぐれているものでも、場合によっては得意とすることで失敗することがある、というたとえとして使われる、

○猿も木から落ちる
○上手（じょうず）の手から水が漏（も）れる
○河童（かっぱ）の川流れ
（河童のように泳ぎの達者なものでも、ときには水に押し流されることがあることから。）
○弘法（こうぼう）にも筆の誤（あやま）り
（弘法大師ほどの名筆家でも、ときには書きまちがいをすることから。）

などがその例ですが、これに似たことわざが外国にもあるというから驚きです。

○ Even Homer sometimes nods.
（詩聖ホーマーでさえ、ときにはくまをやる。）

外国のことわざと似たような内容のことわざがある例は他にもあります。

○ After a storm comes a calm.
（あらしの後にはなぎが来る。）
※「なぎ」は風がやみ、波が静かになること。
○雨降って地固まる
（雨が降った後はぬかるんでいた地面がかえって強く固まることから、もめごとや困難なことが起こった後はかえって物事がよくおさまることのたとえ。）

では、似たような内容のことわざをいくつかグループにして紹介しておきましょう。

まず、自分の専門のことでありながら他人のことであまりにいそがしくて、自分自身のことになかなかかまっている暇がないことのたとえとして用いられることわざには、次のようなものがあります。

○紺屋（こうや）の白ばかま
○医者の不養生（ふようじょう）
○大工の掘立（ほったて）
○髪結（かみゆ）いの乱れ髪

また、いろいろとはたらきかけても何の手ごたえも効き目もないようすのたとえとして使われることわざには次のようなものがあります。これらは、よく、人にいろいろとアドバイスしても、少しの効果もない場合などに用いられます。

○ぬかに釘（くぎ）
（ぬかに釘を打つようすから。）
○豆腐にかすがい
（かすがいは、材木をつなぐためのコの字型の釘。豆腐にかすがいを打つようすから。）
○暖簾（のれん）に腕押し
○柳に風

今度は、反対の意味を表すことわざをセットにして紹介してみましょう。

○急がば回れ
○善は急げ

○人を見たら泥棒（どろぼう）と思え
（軽々しく人を信用してはいけない、ということ。）
○渡る世間に鬼はない
（この世の人は薄情そうに見えるが、困れば助けてくれるようなやさしい心をもっているものだ。）

○柳の下にいつもどじょうはおらぬ
（柳の木の下でたまたまどじょうをとらえたからといって、いつもその場所にどじょうがいるとは限らないというところから、偶然に幸運を手に入れたからといって、同じ方法で再び幸運を得られるとは限らないことのたとえ。）
○二度あることは三度ある

▶知っておきたいことわざ集2◀

○一日千秋（いちじつせんしゅう）の思い
千秋は千年のこと。一日が千年もの長さに感じられて、とても待ち遠しいこと。

○二兎（にと）を追うものは一兎（いっと）をも得ず
二羽の兎を一度にとらえようとして追いかけると結局一羽もとらえることができなくなるということから、一度に二つの物事をしようとして欲を出すと、結局どちらもだめになってしまうということのたとえ。古いローマのことわざから。

○三人寄れば文殊（もんじゅ）の知恵
文殊は、知恵をつかさどる文殊菩薩のこと。一人ではよいアイディアがうかばなくとも、三人集まって相談すれば、よい考えが得られるという教え。

○親の光は七光
本人にはそれほどの実力がなくても、親の社会的地位や名声によって、いろいろと有利に社会生活を送ること。

○腹八分目（はちぶんめ）に医者要（い）らず
食事をとるときに、八分目ほどでやめておくとおなかに負担がかからず健康によいという教え。

○十人十色（といろ）
人はみんな、性格や考え方、好みがまちまちだということ。